

筆山

第20号 / 1995・8

土佐中・高同窓会 関東支部会報 編集人/藤宗 俊一(42回)

〒106 東京都港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 ☎03-3587-6200/FAX03-3587-6201



『ダークダックス・阪神大震災救済チャリティーコンサート』の会場にて、蓮藤さん(3回生)ご夫妻と佐々木さん(33回生)

五十の大台にのって

大台にのって三年たつ。大台も大台、古人が人生はこれまでよと鑑じたレッキとした、由緒正しき大台である。そして「徹夜などの無理がきかなくなつた」「成人病の見本市みたいだ」などと、嘆いてみせる。しかしそれは、あくまでみせているだけであつて、内心は「まだまだだ」と思っている。私だけではない。みんなそうである。

二十の人にとっては、五十は想像を絶する年齢であるが、五十の人の意識の中では、二十と五十は連続した年齢であり、二十はほんの昨日である。因みに、アンケートによれば、自分が老人だと実感するのは六十五歳が一番多いそうである。

どうやら年齢は、常に上昇している直線状ではなく、階段状にとららしい。しばらく同じ段にとどまり、何かがあったときに上の段に進むというふうな……。

こんなことは、しかし、実際に五十の大台にのって初めて感じることであり、五十にならなければ思いもよらなかつたことである。



平成7年度新年総会

平成七年の関東支部新年総会は、1月14日大手町サンケイホールで約二百名が出席して盛大に開催された。母校から籠尾教頭先生をお招きし、本部・町田会長、岡内幹事長、東海・松崎支部長、関西・岡村支部長、広島・小島事務局長、西岡幹事らにも遠路の御出席を頂いた。

今回は、日本国内はおろか、世界中のゴリラを訪ね歩き、交流を深め、ゴリラを描く人としてその才能を開花させた、阿部知曉さん(51回生)を講師にお招きして、オリのこちら側からは想像もつかない彼らとの心の通い合いや、思わず身を乗り出す興味深いお話を伺うことが出来た。18号の表紙を飾った『ブルブル』が、ひよんな事から我が家に嫁入した経緯もあり、私には興味津々の彼女との出会いでした。ご母堂、浜口先生とは異なり、ゆったりとした体型に柔和な目。あゝ、この方ならゴリラも心を開き

近づいて来るだろうなど、納得したものです。会場に展示された何点かのエッチング、著書『ゴリラ訪ねて三千里』を拝見し、目も耳も大満足なひと時でした。

また、満洲幹事長が長年温めてこられた『土佐中・高会館』設立の夢をブチ上げ、檄を飛ばし、熱弁を振るわれた。「その折には是非我が社に御用命を」と名乗り出る気の早

い御仁もいて、まさに生き馬の目を抜くお江戸での新年会でありました。

お正月の新年会は一先ず今年が最後。来年度からは、初夏の季節を予定しています。新しく上京して来る後輩達を含め、新たな同窓の方々の出席を期待し、素晴らしい出会いの場に発展するよう祈ります。(大和田)

この二、三年、世の中のこと、政治、社会、国際問題などで、私なりにかなり心を痛めたり、疑問に思ったりすることがあって、同窓会に行ったら色々かかってみようと思っていました。ところが、今年になって阪神大震災や地下鉄サリン事件などが起こって、私のそういう気持ちにもかなり変化が起きました。消えたわけではないけれど、今は少し違う事で飽和状態というのか……?

縦の同窓会のほかに、28回生の向陽会が年2回あります。その他思いがけないところで先輩後輩の方々にお会いする事もあります。でも同

窓会というのは、ただ何となく懐かしく、温かく、にこにこのんびりして過ごすことになりま。それでいいのだと思います。

戦後、五十年、六三三制教育制度の第一回である私たち28回生は昨年と今年還暦を迎えました。もし機会があれば学徒出陣で戦死なさった先輩のことなど戦争を全く知らない後輩の方と追憶することが出来たらとも思います。

この原稿の宛先は第65回センバツでお目にかかった方ではないかと思いますが、野球も人生の縮図のように奥深いものとして見守っていきたいと思っています

私にとつての

同窓会

28回生 川村 憲

関東支部だより

事務局が移転します

●平成五年より関東支部事務局の置かれていた「六本木司法書士合同事務所」が引越すことになりました。バブルにはじかれ、同窓会に蚕食され、『花の西麻布』から最寄り駅は同じ六本木ながら、飯倉片町の裏店へ流れて行きます。別れ話もあったのですが、醜女の深情けよろしく事務局もくつついて行くことになりました。

新しい住所と電話番号は、左記の通りです。

〒106 東京都港区六本木

三丁目一六番一二号

六本木KSビル七F

六本木司法書士合同事務所内

土佐中学・高等学校同窓

会関東支部事務局

TEL:03(3387)6200

Fax:03(3387)6201

なお、新事務所での活動開始は、八月十四日(月)からの予定です。

関東支部活動報告

●1月14日今年もまたサンケイホールに二百余名の参加者

を得、関東支部新年総会を開催しました。但し、『筆山』十九号でもお知らせしましたように、来年以降は正月開催を変更して五、六月頃に行う予定です。正月は忙しくて出席できなかった方々、学生さん、来年こそはこぞつてお集まり下さい。

●1月21日広島支部総会に41回学年幹事三宅ヨシノリ氏出席。昨年まで広島で単身赴任生活を送っていた同氏は、懐かしい広島支部の面々や馴染みの・・・に再会して感無量の面持ちでした。

●2月4日東海支部総会に窪田副幹事長出席。

●1月28日開催予定だった関西支部総会は、阪神大震災のため中止になりました。出席予定だった宮地支部長と溝渕幹事長は、「来年は復興を祝って二年分飲みましてもらうぞ!」と手ぐすねひいているそうです。関西支部の幹事の方々宜しく願います。

●6月2日『筆山』編集会議。

今回は、20号ということのでユツクリ構想を練って秋頃に『記念号』を出そうと落ち着いていたら、「例年通り七月に出せ」という前事務局長の突然の後白河法皇の院宣により、編集部員一同慌てふためきオットリ刀で参集。さて、続きは後記にて。

母校だより

学校長 森田幸雄

不順な、天候が続いておりますが、会員の皆様がたにはお元気で活躍の由承りお喜び申し上げます。

学校も新学期開始以来三ヶ月を経て、予定に従い順調に教育諸活動を推進中でありますが、これも日頃の皆様がたの熱烈なご支援の賜物と存じ心から感謝申し上げます。

今日までの主だった学校行事は、全校遠足、県下高校総合体育大会、中学クラスマッチ等ですが、中・高とも新一年生を含む全員が、伝統

主要大学進学状況

今回某氏から、土佐、学芸、土佐塾3校のこの3年間の進学状況の変遷が編集部へ寄せられて来ました。編集部では掲載をめぐる賛否両論がありましたが、そのまま掲載して投稿者の意向を尊重する事に致しました。

土佐学芸土塾				土佐学芸土塾				土佐学芸土塾			
北大	⑦ 3	⑧ 2	⑨ 0	東工大	⑦ 1	⑧ 0	⑨ 0	慶応	⑦ 13	⑧ 8	⑨ 9
⑤ 1	1	2	0	⑤ 2	2	2	1	⑤ 16	24	24	8
⑥ 3	3	3	1	⑥ 2	2	1	0	⑥ 29	13	22	
東北大	⑦ 7	⑧ 3	⑨ 2	一橋大	⑦ 1	⑧ 2	⑨ 0	⑦ 6	6	2	
⑤ 0	1	0	0	⑤ 3	5	1	1	⑤ 10	6	7	
⑥ 1	1	1	1	⑥ 0	0	0	0	⑥ 6	1	4	
東大	⑦ 4	⑧ 8	⑨ 3	お茶大	⑦ 0	⑧ 1	⑨ 0	⑦ 11	8	6	
⑤ 5	14	4	4	⑤ 1	0	1	1	⑤ 12	10	7	
⑥ 6	5	4	4	⑥ 1	1	1	1	⑥ 18	10	6	
名大	⑦ 3	⑧ 1	⑨ 0	神戸大	⑦ 1	⑧ 1	⑨ 0	⑦ 4	5	7	
⑤ 3	8	0	0	⑤ 1	5	3	3	⑤ 11	8	7	
⑥ 1	0	0	0	⑥ 7	2	3	3	⑥ 19	9	16	
京大	⑦ 14	⑧ 3	⑨ 3	高知大	⑦ 30	⑧ 57	⑨ 45	⑦ 5	3	4	
⑤ 1	2	3	3	⑤ 34	51	22	22	⑤ 4	1	4	
⑥ 5	2	1	1	⑥ 29	51	16	16	⑥ 6	1	6	
阪大	⑦ 8	⑧ 11	⑨ 1	高医大	⑦ 8	⑧ 5	⑨ 5	⑦ 6	11	3	
⑤ 8	5	4	4	⑤ 7	7	5	5	⑤ 12	3	3	
⑥ 10	7	0	0	⑥ 10	6	4	4	⑥ 10	4	3	
九大	⑦ 2	⑧ 3	⑨ 0	早稲田	⑦ 23	⑧ 24	⑨ 9	⑦ 19	28	4	
⑤ 3	1	0	0	⑤ 26	23	15	15	⑤ 15	15	9	
⑥ 2	1	0	0	⑥ 42	9	24	24	⑥ 23	12	7	

である文武両道の目標達成に向かつて全力投球中といったところですので、何卒ご休心の程お願い申し上げます。

ところで去る一月二十八日挙行の高校第七十回卒業式には、宮地支部長さんにご出席頂き激励を賜るとともに、卒業生に関東支部会員名簿をご配布頂きました。併せて厚く御礼申し上げます。

この卒業式に先立つ一月十

七日突発した阪神大震災は記憶に鮮烈なところですが、その折、六十七回生で関西学院大二年在学中の三木章裕君が、下宿の倒壊で亡くなりました。痛ましくも残念でなりません。私の式辞でも触れましたが改めて哀悼の意を表する次第です。この外にも主に関西地区在住の方がたで罹災された同窓各位も多くおられる事と存じ、心からお見舞いを申し上げます。

げます。

本校にとって明るいニュースの一つに大学入試の結果があります。今回は八年振りに現役生の合格率が大幅アップいたしましたし、大学別でも京大の十四名(現役八名)、東北大七名中現役五名全員合格等は久し振りの好成果でした。これも生徒諸君の伝統を賭けての真摯な精進と、皆様がたの厳しくも又暖かいご声援に拠るものであり、学校当局としてただただ感謝の外ありません。本年度以降もフロックの餅りを受けることのないよう奮起して取り組みを進めている最中ですので、引き続きご声援の程お願いいたします。

入を計画、鋭意入選中でありますのでご報告申し上げます。さて地下鉄サリン事件や、オウム真理教の反社会的行動とか、このところ暗いニュースばかりが続きます。二十一世紀を背負う生徒達の為にも、明るい希望に満ちた未来の招致に努めなくてはと決意を新たにしているところであります。皆様がたの更なるご支援、ご鞭撻の程お願い申し上げます。

運動部活動報告

母校よりの報告によりまずと、平成七年高校県体で後輩達の活躍が目覚しく、優勝5、準優勝9を含め、数々の成果を挙げたということです。尚、ハンドボール男子団体優勝者名簿の中に特徴ある三宅ヨシカズの名前がありますが、あの吉良川の三宅兄弟の一族ではないかと思えます。

優勝

ハンドボール・男子団体
バスケットボール・男子団体
柔道・個人軽重量級
自転車・男子団体ロードレー

ス、男子個人3km追抜
この結果、右記優勝者に加え準優勝のパドミントン、テニスを含めた六種目、八競技

一八九五年にパリで日伯修好通商航海条約が締結されて、今年で百年になる。これを記念して、今年から来年にかけて、日伯両国で人的交流を含め、いろいろな行事が予定されている。

一九〇八年六月、第一回移民七八一名が笠戸丸にてサンパウロの外港であるサントスに着いた。爾来幾星霜。様々な辛酸を嘗めつつ、日系移民の先達は此の国の中にしっかりと根を下ろし、社会の多くの分野に進出し、ついに政治の世界で大臣を出すにいたった。

地球上で最も遠い国同士でありながら、日本の目から見れば、百万人を越える日系人が住むブラジルは、血筋の上からは世界の他の国より最も近い国と言ってもよい。

これだけ長く、濃い付き合いがあるから、日本人はさぞかしブラジルを良く知っているだろうな、と考えられるが、実はこれがはなはだ頼りないのである。コーヒーと大豆が主要な産物で、アマゾン川とそのまわりのジャングルがブラジルだと思っている人の方が多いのでは……。

が多いのでは……。

確かにそれもブラジルの一つの側面であり否定するものではないが、別の一面からすれば、アメリカに航空機を輸出している程の先進工業国であり、同時に、サンパウロはその高層ビル群がマンハッタ島よりも、ある意味では規模が大きい程の大都会である。それに比べたら我が新宿副都

足の裏から ⑥

修好百年

川崎製鉄ブラジル支店長
38回生 戸田博之

心の高層ビル群といえども、まだ子供。

国全体を見れば、GNPでは世界のベスト・テンに入るような国でありながら、一方では、巨大な貧民窟が存在し、裸足と裸で生活しているような人間が大勢いる極端な国がブラジルである。

アメリカとブラジル。この南北アメリカを代表する二国

が発見されたのは一五世紀末のほぼ同じ時期で、ブラジルの方が八年後。以来そろそろ五百年経つ事になるが、この二国の間に横たわる現在の国力の差はどうして出てきたか一口で言えば、『労働する事が信仰の証であり、利潤は労働を通じて得るもの』というカルピニズムを信仰の基礎としたアメリカへの移住者と、『ある意味では怠惰を美德とした』ローマ・サラセンの血をひくブラジルへの入植者との違いであろう。

資源の何も無い貧しい中南米の国の人間が神様に対して不満を言った。「ブラジルにだけ、あれ程ありとあらゆる豊かな資源を与え、神様は不公平です！」

神様が笑って答えた。「だからこそ、ブラジル人を置いたのだよ」



に延べ三十八人が全国大会への出場切符を勝ちとったそうです。また四国大会には、右のほか陸上、卓球、剣道、弓道、登山、なぎなた、の十二種目三十競技が出場することとなりました。

皆様ご期待の野球部も健闘し3位入賞を果たし、七月後半より第四シードで県予選に参加、これに続けとばかり甲子園を目指します。本紙発行の頃には、更に嬉しい知らせが届いているかもしれません。

本部だより

幹事長 岡内紀雄 (34回)
●平成七年度総会

今年の総会は、8月5日(土)三翠園ホテルにおいて開催いたしました。午後3時から総会、4時30分から記念講演会、講師は鶴リクルート人材センター相談役・満洲真清氏(32回)、5時30分から懇親会の予定です。みなさま方多数のご出席をお待ちしています。

●会員名簿

同窓会会員名簿の作成は、予定より少し遅れて最終の段階に入っています。広告その他で関東支部の皆様には多大なご協力をいただき、ありが

とうございました。仕上がり次第、順次お届けいたします。

東海支部だより

支部長 松崎正雄 (28回)

此の度、関東支部会報『筆山』が二十号を迎えましたこと、心からお喜び申し上げます。

私は、この一月、初めて関東支部総会に出席させていただきました。世話役の皆さんが、同窓会を意義あらしめるため、色んな悩みを克服しながら一生懸命努力されている姿に感銘を受け、母校のためにも郷土のためにも、首都圏の支部として、今後とも大いに頑張つて欲しいと願わずにいられますでした。

私も東海支部は、昭和三十年代の後半、卒業年次を問わず数人の酒好きの仲間で呑み始めたのが、四十万川ならぬその源流です。現在は、毎回三十〜四十名の参加を得て、につばち月の年二回懇親会を開いています。二月開催を五月にずらして、大学への新入生諸君(名古屋では毎年数名程度ですが)の歓迎を兼ねて開き、いささかでも後輩諸君のために役にたてればと考えています。

関西支部だより

事務局長 竹原暢子 (28回)

●1月28日(土)に予定して居りました新年パーティーが阪神大震災のため、急遽中止となりました。その後同窓生間、連絡の可能な限り安否の確認をいたしました。以後活動は停止。

●6月28日(水)に漸く本年度第一回の幹事会を開催。

広島支部だより

事務局長 小島一洋 (31回)



●お元気ですか。今回は、広島支部名誉会員 竹村照雄氏(20回

・多摩市在住)の「一億二千万分の一の役割」の小論の一部を、関東支部の皆様方に紹介させて頂きます。

広島支部では、9月2日(土)の午後に、竹村照雄先輩と語る「一億二千万分の一の役割」の集いを実施致します。尚、フルコピーご希望の方は

〒739-104 広島県佐伯郡大野町福面2-2-12

土佐中・高同窓会広島支部事務局 小島一洋まで

TEL0829-56-1659 Fax56-3752
お届け致します。

.....

執行猶予となつて手錠をかけられることなく法廷を去ろうとする彼に対し、私は、裁判長が君に託したものの、賭けたものは何かをよく考えるように言った。

釈放されて私の事務所にあいさつに来た彼と今度は信頼し合う仲の人間同士として話し合った。

彼が言ってくれた言葉で最も心に残ったのは、「人の出会いということ

がよく言われる。私はこれまでそれは偶然の出来事に過ぎず、要は自分がいかに生きるかにあるのみと信じてきた。しかし

今度の事件では、その出会いがいかに大事なものであるかを教えられた。」

とはいっても、彼は右翼たることの志を放棄したわけではない。むしろ今の右翼は堕落しており、自分こそが真の右翼た

ねばならぬ、という強い使命感を依然として堅持している。裁判長は、彼を実刑に処して、右翼の英雄にし、いよいよ本格的な行動右翼たることを防ぐために、この生きた世

の中で、しっかりと勉強し、自他を見つめ直すことを期待されたのではあるまいか。

『一億二千万分の一の役割』の終章

(財)日本法律家協会報『窓』46号掲載

20回生 竹村 照雄 (弁護士・元広島高検検事長)

私には相変わらず、彼に対する自分の無力を思い知りつつ、彼に言ったことは、一億二千万分の一の役割についてであった。日本には、一億二千万の人が住み、それぞれ職業、身分を持ち暮らしている。各自のやっていることが果たして世のためになるのか、ならないのか。この私の仕事にしても、日々弁護士として生業をたてているが、よく考えてみれば一億二千万人の中の一人として、ただそれだけの役割を担って生涯を歩いてきたのではなからうか。額に汗して自らの糧を得よという言葉があるが、君もそれを実践しその中から何かを見出したらどうか。

これがいうならば、彼に対する唯一のお説教であつたかもしれない。しかしこれは私自身に対する戒めであり、彼と出会うことによつて得た一つの境地である。心から彼の幅広い視野に立つた再生を祈つてやまない。

思い出の先生方⑭ 平林 泰人先生(65才)

負けず嫌いの兄

弟 平林 芳治(30回生)

このシリーズで弟(それも六歳年下の愚弟)が兄なる先生の思い出を書くのは初めてのこと。「親と子」と違い葛藤の多い思い出が多い。

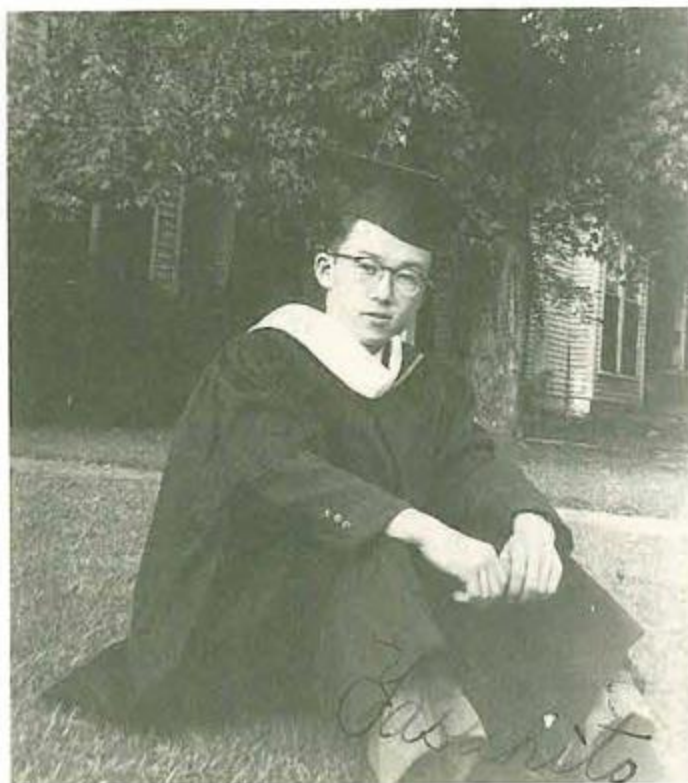
しかし、半世紀近い記憶の彼方をたどると、懐かしさとノスタルジアで悪い思い出はカットされ全ては美化されてゆく。

兄との思い出はやはり少年時代、それも終戦の前後に飛んでしまう。食料のない頃の空きっ腹でも、種崎の海岸の白砂の上に丸い輪を描いて、よく相撲をとっていたのがなによりも懐かしく思いだされます。やはり肌と肌をぶっつけて遊び、喧嘩をした普通の男兄弟であつたようです。

話は飛んでしましますが、中学の頃胃弱で、よく掛かりつけのお医者さんが太いリンゲル(今の点滴)を静脈注射しているのが日常風景でした。それ故か身長が伸びなかったのは確かです。しかし、人間

万事塞翁が馬、それ故のコンプレックスの反動がバイタリティとなり、もの凄い負けず嫌いになったのも世の常。兄弟のなかで一番優秀で、父母の期待を一身に集めていたのがそのころの兄を取り巻く状況でした。

海南中学(小津高校の前身)



から旧制高知高等学校に進みましたが、一八〇度も変わった国家体制と学制改革のなかで、純粋な青年の悩みと、自分の思いのままに行かないことが、フルブライト留学(戦後処理の資産を米人フルブライト氏が留学制度を作り戦後日本に大きな影響を与えることとなった)を目指すことになったのではないかと、これは今は亡き父母の会話を推測してのことです。

カット写真はフルブライト留学先のハーバート大学構内での卒業時のものです。今の

留学と異なり、会話をマスターするのも大変で、その頃高知大学にアメリカから教授として来られていたオースチン先生のご自宅にハウスキーパーとして住み込み、まさに丁稚奉公をし、大変苦勞したようです。

その頃土佐中、土佐高には海南中学の頃の恩師が多数おられ、帰国後土佐高の先生になる縁となったようです。

私もすでに卒業しており、兄の教師(ヒラリン先生)としての姿は帰省の時しか見ておらず、評判等はたまに聞く程度でした。私の見るかぎり、父譲り(父も英語の先生)の語学力と、英語に対する情熱と努力は並大抵のものではなかったようです。

貧しくも古き良き時代の土佐の高知を謳歌し、良き弟子に恵まれ、幸福な教師の一人だったと思います。

弟に対してもいざ勉強のこととなると大変激しい兄でした。あまりにも真面目すぎたのかもしれません。しかしこの原稿を兄が読んだらきつと「なにをイッチョルか」と言われかねません。

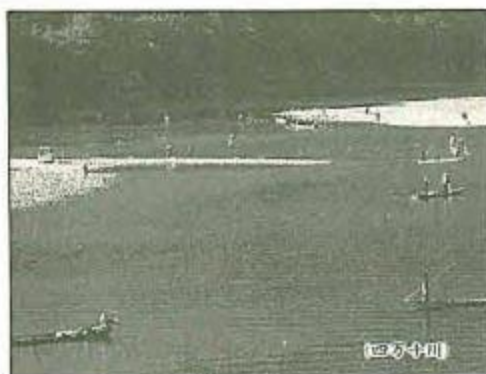
願がわくば読まれないことを祈る。

龍馬も、鯨も待っている
ふるさと高知

暮らしたいいき、ビビッドバンク

高知銀行

東京支店 中央区八重洲2-6-21(電)03-3273-3061



『阿佐ヶ谷文士村』にて

併けやき法律事務所 土 笹岡 峰夫(43回生)



事務所で執務中の筆者

一・厄年ころから体調を崩したことがきっかけで、有楽町の共同事務所を離れ、自宅に近い杉並区阿佐ヶ谷に事務所を持って三年半が過ぎた。銀座のネオンを懐かしくおもうこともなくなり、下手なゴルフの夜間練習と入浴後のビールでまずまずの体調を維持している。

のんびり「阿佐ヶ谷徒然草」でも執筆しようかとの思いはあるが、事務員が二名、弁護士は私だけなので、気儘な反面、融通が利かない面もあり、多数の民事や刑事の処理に追われる毎日であることには変わりがない。

二・同じ杉並区の法律相談員として、よく懇親コンペ等で一緒にいる徳島県出身の鏡健也(ペンネーム鏡信一郎)氏という方がいる。その実家に伝わる極秘の伝承を調査した結果、同氏の先祖は土佐安芸氏であり、長宗我部元親に滅ぼされた安芸国虎の子・千寿丸が、重臣・畑山氏に連れられて阿波に逃れた際「香美(かがみ)」を名乗り、更に「鏡」と改氏したとの意外な事実がに迫り着いたとして、『阿波鏡城記』(新人物往来社)という一冊の本に纏めたという。

右の事実に通じ着いて以来、高知県出身の私に親近感を覚えるらしく、右の本も「贈呈」して頂いた。早速読み始めると結構興味深く、一気に読み終えた。ここに紹介する次第である。

三・最近、うれしい判決の言渡しがあつた。

1、白山北麓や四万十川流域での地域ゼミナール活動「僻村学校」等でも知られる直木賞作家高橋治氏が旧制四高時代の恩師と同級生からヒン

トを得て書いた小説『名もなき道を』は、昭和58年11月高知新聞等に連載され、後に単行本や文庫本(いずれも講談社)として刊行され、第一回柴田練三郎賞を受賞した作品である。

2、平成元年になって、右同級生の妹夫妻から、同人らも前記の小説の「モデル」とされ、プライバシー等が侵害されたとして、高橋氏と講談社を被告として出版禁止、謝罪広告掲載及び慰謝料支払を求めた訴訟につき「原告の請求をいづれも棄却する。」旨の判決が、平成7年5月19日言い渡された。

3、三島由紀夫の小説『宴のあと』判決以後三十年余り例のなかつた本格的な小説によるプライバシー侵害が問題となった本件判決は、『宴のあと』判決以後、国家権力による情報収集やマスコミ等の事実報道といった関係等でのプライバシー保護のより一層の拡大が論じられている中、読者に対して「虚構」として物語る小説の表現活動は、「事実」として報道する場合とは、その本質が異なることに着目

して、プライバシーと表現の自由との関係につき、『宴のあと』判決には見られなかつた高度の調整原理を示した。

4、当初から、小説とは「事実のようでありながら事実ではない」。「つくりごと」を通じて、人間や社会の「真実」に迫ることが可能とされる表現方法であり、この「虚構性」は、歴史的・社会的に形成されてきた創作概念に含まれており、小説の作者と読者の当然の了解事項というべきである旨主張してきた高橋治氏の弁護団の一人として、本件判決は、被告らの主張がほぼ認められたものとして評価すると同時に、将来に禍根を残す結果とならなかつたことに高橋氏共々「ほつ」としている。

いつまでも心に残るおつき合い



島崎和歌子

営業店舗

- 高知県下.....76店
- 徳島県下.....27店
- 香川県下.....9店
- 愛媛県下.....7店
- 本州地区.....11店

ぐんぐんバンク

四国銀行

本店/高知市南はりまや町1-1 電話085-25-2111

震災後百五十日目の芦屋から

関西支部・竹原 暢子(28回生)

どんよりとした梅雨空に隣家の泰山木の白い花が美しく浮かび上がり、紫陽花もまた今を盛りと咲き誇っています。季節は、忘れずに移り変わっているのです。

JR芦屋駅から北へおよそ五〇〇米、ご存知、激震地でありながら、その地層を僅かばかり外れていたことで私の住むマンションも、古い立派な大屋根の隣家も倒壊を免れていたのです。が先日三日程続いた大雨で隣家は崩れ、とうとう撤去となったようです。今は、庭園を残すのみ。いずれは新しいお家が建つのでし

ようが……

こんな光景が至る所に出現して、三十年近く見馴れた街の佇まいがすっかり変わってしまった。たった二十六秒で、人間が営々と築き上げた財産が無残にも破壊されてしまふとは、自然の力は恐ろしいものです。常に利用していた、頑丈に見えた阪神高速があちこちで落下。その現場を見た時の恐ろしさは、言葉では言い表せない程のものでした。NTTは地震発生から四分後に不通で、公衆電話へと駅前に走ると、一時間半程待たねばならぬ長蛇の列。黙

って待つしかありません。

翌十八日早朝、意を決して大阪へ脱出することにしました。以来三月末のガス復旧まで六十五日程を泊まり歩くことになりました。脱出の途中、甲子園口北のアパート全壊の現場を通りかかった時、「まだこのコンクリートの下に七、八人が生き埋めなんですよ」と、なすすべもなく立ちつくす人達の横を何ともたまらない気持ちで走り抜けました。本当に胸ふさぐ思いとはこのことでしょう。

修羅場のような日々が一応過ぎ去り、ゆっくり回りを見渡しますと、あの五時四十六分が六時以降だったなら、武庫川にかかる橋が三本共落ちていたら、新幹線が一般道路(それも現在非常に重要な)の上に落ちていたら……もつともつと恐ろしい結果になっていたのではと思うと身の毛がよだつ思いです。

三月末にはお陰で自宅に帰ることができ後片づけです。普段は当たり前と思っていたことが、何事もありがたく思えるようになり、一日一日を大事に過ごすことに致しました。元のように街が美しく蘇るのには二、三年はかかることでしょう。がその時はきっと災害に強い街に生まれ変わっていることでしょう。今は唯、犠牲になられた方々のご冥福を祈るのみです。



写真提供・高知新聞社

昨年、一九九四年七月二日の土曜日、私は神戸市のポートアイランドにあるポートピアホテルで、ITC日本リージョン2の大会に招かれ「京阪神地域に起こる地震」と題して講演した。同級生の今井京子さんのご紹介でこの講演が企画された。当日は同じく同級の川田美智子さんにも久しぶりでお目にかかることができた。

ITC日本リージョンの会長は伊庭文子さん。京都に住む女性で、その日の会にも出席しておられた。ITC日本リージョンの大会パンフレットを下さったが、その表紙は彼女の描いた六甲山を背景とする神戸の絵で飾られていた。六甲山が緑に、神戸の街が金色に、瀬戸内海が青に描かれ、これらの三色の帯が海から見えたこの街をよく表現していた。私のそのときの話の内容は、もうこまかくは覚えていないが、一番のポイントはこの神戸にも大地震が起こるという点であったはずである。話の出だしで私はそのときいただいたパンフレットの表紙の伊庭文子さんの絵を使わせていただいた。三色の帯で描かれた細長い地形は最近の

活断層運動によって形成されたものであり、活断層の動きで神戸の街と六甲山の高低差ができてきたというしくみを話した。この地域の活断層帯は、数百年から千年に一度の割り合いで突然数メートルのずれを起こす性質を持つている。そのずれが大地震を起こす。

活断層のずれによって奈良や京都の盆地ができ、大阪や神戸の平野ができた。近江平野も濃尾平野も同じしくみでできた。そのような地形を選んで都や都市ができた。京阪神の都市は、したがって大地震でずれる活断層帯の上に発達したわけである。

六甲山の山麓の活断層帯が大地震を起こしたとき、このポートピアホテルにいたら、あわてて飛び出さない方がいいと講演の最後に話した。大きく揺れるけれどもこの建物は新しい技術で建てられているから大丈夫、しかし、大地震の揺れがおさまって急いで

家に帰ろうと思っても、外は液状化を起こして水びたしで道路もこわれ、帰ることができないと話した。会場の一〇〇人ほどの皆さんが私のそんな話を、熱心に聞いて下さっていた。

今年一月十七日の大地震のあと、今井京子さんから電話をいただいた。「去年あんたの言うてたとおりになった」と彼女はいわれたが、そのとき彼女は全壊したご自宅から

「京阪神地域に起こる地震」という講演

34回生 尾池 和夫



逃れて避難先から電話をかけて下さった。

その講演会の案内に書いた簡単な説明をそのままここに引用する。

「地震は地下の岩盤にたまったストレスが解放される現象である。地下の岩盤が突然割れてずれる。そのとき地震が起こる。ずれは同じ所で繰り返し起こり、地表に現れたその傷跡が活断層である。京都盆地のまわりの山も、六甲

も生駒も、活断層の上下のずれで隆起した。沈降した側の堆積層に都市が発達した。京阪神の地下には今、ストレスがたまっている。地震に十分な備えをしておいてほしい。」

京阪神地域の地震の活動期は二一世紀に入るから入らない頃から始まるであろうといいつつ、そのとき私自身、まさか翌年明けて早々に神戸の街の大震災が起こるとは思わなかった。今井京子さんの家でも、私の

話を聞いて友人には地震対策をすすめながら、彼女自身はまだ十分な対策を終えていなかったという。

突然の地震に日頃から備えておくことは、いかにむづかしいことかということ、阪神・淡路大震災で、あらためて考えさせられる。西南日本は地震活動期に入り、京阪神とその周辺地域でも、まだこれから数十年の間に数回の大地震が予想される。南関東でも大地震が目前に迫っている。私たちの母校のある高知では、

次の南海大地震まで四十年ほどしかない。時間のかかる地震対策は今から忘れずに実行しておいてほしいと思う。

* * *
京都大学教授（大学院理学研究科）。日本学術会議地震学研究連絡委員会委員長、同阪神・淡路大震災調査特別委員会委員。

最近の著書に古今書院『地震発生のしくみと予知』（二〇〇〇円）、朝日文庫『日本地震列島』（六九〇円）などがある。この朝日文庫の本では、高知や関東や近畿その他日本の地域ごとの地震の特徴を平易に紹介してある。



『一つの流れ』

30回Kホームが卒業四十年を記念してクラス誌『一つの流れ』第11号を発行しました。有閑というには少し間のある年代とあって準備に一年を要しましたが、執筆者は三十余名となりました。

幼い日への回想あり、目下

の最大の関心事である健康問題についてであり、盛り沢山の内容です。庄巻は写真家・島内英佑氏の『土佐の一本釣り』（8頁）でしょう。ご希望の方は30回内川まで、バックナンバーの在庫もあります。(TEL:044-866-7109)

『子供達の世界』

本紙編集委員として、また最近では本年4月ダークダックス阪神大震災救援チャリティコンサートをほとんど一人の力で大成させたマルチ主婦、我が同窓会関東支部副幹事長佐々木泰子さん(33回)が、今度は調布駅前の画廊で絵の個展を開いた。

一〇〇号の大作から小品のデッサンまで、展示された十数点の作品全てから、我が子に注ぐ優しさといっぱいの母親の眼差しが感じられ、サブタ

イトル「子供達の世界」そのままの自由で明るく柔らかな雰囲気会場一杯にただよっていた。

高知県出身の漫画家やなせたかし氏からの「心暖まる作品の数々」との賛辞が寄せられ、一週間の期間中には島津学習院長夫妻等の著名人や同窓生多数、それに彼女が主宰する絵画教室の教え子等がひきも切らず、大盛況のうちに幕を閉じた。

『ゴリラのひょうげん』

今年一月に行われた関東支部新年総会で、大きな体に似合わぬやさしい語り口で聴衆を魅了し、中でもオジサン同

窓生に多くのファンを獲得した阿部知曉さん(51回)が、今度は故郷高知新聞に7月4日よりエッセーの連載をはじめ

出版リーダー

●40回 塩田 潮 著

『昭和をつくった明治人』文芸春秋 上下各二二〇〇円 ※塩田潮氏の出版二〇冊を祝って、去る7月14日(金)赤坂プリンスホテルに各界著名人を集めて盛大に開く会が開かれた。

●27回 龍尾 良雄 著

『全力疾走三十年』高知新聞一八〇〇円 昨年より一年にわたり同紙に連載された龍尾先生の回想録が、連載終了と同時にいよいよ出版。



公演・展覧会

●39回 北村 文典

一月、帝劇 『愛染め高尾』演出

風のたより

●29回 泉 宏夫
毎度、『筆山』を御送付頂

きありがたく、そして懐かしく読ませて頂いて居ります。

初めてお便りしますが、小生29回生で、今年5月末、昭和シェル石油を退職し、ヨロ口ツバ等で一カ月程遊んでから7月より昭石エンジンアリングという所へ性懲りもなく再就職することになりました。

最近、会社の社内報(小生が編集委員長をやっている、いい加減なものです)へ寄せた乱文同封致しますので、御笑覧下さい。同窓の諸兄姉に宜しくお伝え下さい。

ふるさと自慢

高知

高知のふるさとを自慢する。高知のふるさとを自慢する。高知のふるさとを自慢する。

同期会

●27回 岡林 幹雄

3月18日、そぼ降る小雨の中、27回生の集いが行なわれた。

音羽の会場へ歩いて10分という者や、沼津居住者やら14名の集まり。卒業80名のうち物故者11名で、東京周辺居住者は20名だから参加率は期待

以上。

往年の美少年達は現役社長あり、元検事正ありと経歴は異なっても、皆夫々に年輪を刻んで、所謂イイ顔になっている。飲み且つ語り合ううちに時間の觀念がなくなり予定時間を大幅にオーバー。費用もオーバー。会社で残業や予算の管理をチャーンとやっているのか疑問との声あり。ザンキ。

次回を約して帰る皆の足許ヨロヨロ。成る程、店の名前が「竹馬」であった。

●30回 小野 武男

恒例の関東同期会が5月24日飯田橋会館で開催された。吉田先生には、本年もお元気に出席頂いたが、公文先生が休養のためご出席頂けなかった事は残念であった。一日も早いご回復を祈念いたします。

遠くは、高知・鳥取から遠征の樋口・千原両君を加え総勢が二時間余り懇親の時を過ごした。

話題が、「健康」・「孫」・「老後」に集中したのも、卒業後四十年経過したためであろうか。

来年は、関東支部総会との関係で5月を避け、繰り上げ

めた。題して『ゴリラのひとりごと』

毎回彼女の描くあの可愛いゴリラのイラストと共に、『ゴリラの表情を見分けられる数少ない日本人の一人』という紹介のとおり、繊細な観察眼とゴリラに対する愛情溢れる筆致で、読者を知曉とゴリラの世界に引き込んで行く登場するブルブルやタイコやピーコといった動物園のゴリラ達が、まるで近所の腕白坊

主が親類の子供のように思えてくる。

およそ六十回連続で、9月頃まで毎日連載される予定である。

関東では高知新聞に接する機会が少ないが、是非チャンスを作って一読されることをお勧めする。なお、ご希望の方には切り抜きコピーを差し上げますので、事務局または編集部までご連絡下さい。

伊勢崎町のビワ新橋のたもとにあるお店『マッシュルーム』は、52回生の川上司さんの妹、仁(ひと)

さと)さんご夫婦がオーナーのお店です。抜群のロケーションにあり、ゆったりとした店内からは久万川の四季が楽しめる、くつろいだ

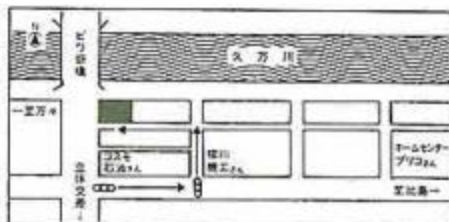
時が過ごせます。長年板前としての経験を重ねてきたご主人が作る料理は

高知に帰ったら寄りたいたいお店 ②



CAFE REST マッシュルーム

高知市伊勢崎町18-9
TEL 71-0050



コーヒーもとても評判が良い。是非、一度お立ち寄りください。(Y)

まさに絶品。メインの日替りランチ700、ブランチセツト800、酢豚定食800、しょうが焼き定食700のたれは自慢の自家製。他にも、麺類からトースト系、グラタンに至るまで全部おいしい。仁さんの入

て開催の予定である。

紙上をお借りして、PRさせて頂くので、是非ご出席をお願いしたい。

●33回 久保内 端郎

6月2日、目黒八芳園に、高知から山本直四郎先生と珍客二人を迎え、大いに盛り上がった。二次会のカラオケでは、先生の歌う童謡、「柱のキズはおとどしの……」が懐かしく、うれしかった。

筆山会だより

第28回 筆山会ゴルフ(S.S.C)

高知、鳥取からの参加者を迎え、快晴のレインボー・C・Cで行われ、久しぶりに参加した山本氏(25回)が優勝。

①山本 高敬(25) 95 18 77

②藤田 章(30) 86 9 77

③竹田 幸雄(33) 86 9 77

④浅井 伴泰(30) 97 14 83

⑤川崎 洋輝(37) 95 12 83

北岡(5)久保内(20)山中(24)

近沢(26)福本(28)大町(30)

千原(30)樋口(30)原(30)溝渕

(32)宮川(33)小松健(33)八井

田(34)高田谷(38)小松三(41)

産婦人科医の久保内氏が、

たもや十位(獣医)になり、

転向?の爆笑のスピーチがあ

り大いに盛り上がった。参加回は10月19日(木)。参

加希望者は宮川氏(33)まで。

なお、前回は山中氏(24)が優勝しました。

お悔やみ申し上げます

●48回 桜井(前田)留里さん

病氣療養中のところ平成7年1月19日ご逝去。桜井さんには、女性弁護士として第一線で活躍の頃、『筆山』や同窓会名簿に何度か名刺広告によるご協力をいただきました。謹んでご冥福をお祈り致します。

お礼の手紙

●33回 佐々木 泰子

青葉若葉のすがすがしいきようこのごろでございます。いかがが過ぎでいらつしやいますか。

先日は、ダーク・ダックス阪神大震災救援チャリティコンサートにおいて下さいます。して、ほんとうにありがとうございます。ございました。おかげさまで心の通ったすばらしいコンサートになりました。これも全て皆様の暖かい善意のお陰と、心からお礼申し上げます。

本日、このコンサートの全収益金を、阪神の被災地の方々の役に立てて頂けるよう、義援金として日本赤十字社を

通して寄付させて頂きました。

コンサートのおとで、たくさんの方々からお手紙や電話を頂きましたが、「なつかしくて涙が出た」、「忙しさを忘れかけていた大切なものを思い出させてくれた」、「感激した」等々の声の中に「ダークって聞いたこともなかったけど、よかった。ファンになっちゃった。」との若いお嬢さんの感想もあり、とても嬉しく思いました。「コンサートを楽しみに毎日を過ごしています」と、おっしゃっていた阪神の被災された方々も、「よかった。よかった。すばしかったです。」と、喜んで下さいました。先日も一人のご婦人(六七才)の娘さんから「母がとても感激しております。なんとお礼を申していいやら。」と、神戸からわざわざ丁寧なお電話をいただき、思わず胸が熱くなりました。

ダーク・ダックスも関係者の方々も「今日は良いコンサートだった。お客様が良かったですね」と褒めていらつしやいましたこともお伝えしておきます。

コンサートが終わった翌日、気がつくとき桜の花や萌黄色、若草色の美しい色にかこまれ

『酒呑童女』は本も好き!

ICBA会長 永森 裕子さん(44回生)

児童書の出版で知られる福音館の会長、松居直氏の講演会に招かれ、「こどもの城」に出かけた。司会者が開会を告げ、主催者代表の挨拶が始まった。

「あれ一つ、彼女は」

私の目はその代表に釘付けになった。何と44回生の永森裕子さんではないか。飲むたびに「酒呑童女」の異名をとる豪快なお人である。

「酒ばっかりかと思うたらこんなこともやりゆうかね」

私はそこで初めてICBAというボランティア団体の事を知った。酒呑童女はその会の何と三代目の会長さんだったのである。

International Children's Bunko Association とは「国際児童文庫協会」と訳すらしい。設立されて十六年になる。帰国子女を対象にした文庫活動の団体である。例えば英国

に小さな子供を連れて海外赴任したとしよう。子供は帰国後せつかく覚えた英語を使う機会がないから忘れてしまう英語の本を読み、聞く場があったらどうだろうか。

そこで海外体験のあるお母さん達が週に一回集まって本の貸しだしやら、ゲームやらを通じてコミュニケーションを図っているのがこの団体らしい。活動中は原則日本語を使わないというからびっくり

国内に二十三、海外二十七の文庫をもち、その総元締め役を果たす永森さんは「外国語を覚えさせるという功利的な面に関心が向きがちですが、私達はこの活動を通して子供にいい本を読み聞かせ、親子の触れ合いを深める場にしたい」という。

しっかりした哲学をもったりりしい酒呑童女のもう一つの顔を見た。(岩)

ていて「ああ、春だな」と改めて「しあわせ」を感じたものでした。そして今、若葉がまぶしくあちこちから花の香りがただよってきます。美しい自然で四季の移ろいを感じられる日本は、やっぱりいいな。地震がなければもつといいのに。暗い事件がなければもつといいのに。人の命の大切さ、かけがえのなさ、そのことを今一度考えながら、

【編集局より】
去る4月13日、調布グリーン・ホールに於て、『阪神大震災救援チャリティ・コンサート』、ダークダックスの夕べ

明るく前向きに生きていきたいと思えます。皆で手を携え、いたわりあつて……。
それでは、皆様のご健康とお幸せを心からお祈り申し上げます。

すきま風

●ひさびさに、わが同窓会から『新人歌手』が登場。カラオケで有名な3回生のSさん。期待のニューフェイスには少しトウが立ち過ぎているが、

編集後記

サビは抜群。コロニアの録音スタジオに3カ月通い詰め、CDに収録した曲は『岩尾別旅情』『南国土佐を後にして』等、全部で12曲。1月17日には、三菱クラブを借りて、新盤発表会。ダークダックスも友情出演し、聴衆は政財界の風流人ばかり。「日本の録音技術はかくも進歩した」「余震が起きなくて良かった」など、賞賛の声が会場に満ちあふれた。残念(幸い?)な事にCDは非売品なので、今度の同窓会での再演を期待しましょう。

■つれあいと母を看取って2年余りになります。以来、アケセサリーの類をいっさい身につけない生活になりました。過日、久しぶりの同窓会出席のため指輪を出してみたら、以前誂えた12号が小指以外どの指にもはめられなくなっていました。ふしくれ立った指しでしょうか。(内)

■いつもの面々が集まり、20号の担当の奪い合い?(譲り合い!)その賑やかなこと。気のおけない仲間同士、すぐに話はわき道に逸れ、盛り上

がり、ちつともまとまらない。編集長も目出たい事に本業が大層忙しく、後がないギリギリの所での召集です。

先輩のUさんが「今日はちよつとこんなものを……」と、大皿に山盛りのいなり寿司を机の真中にドカンと。皆、目がくぎ付けになり「ヤッター!」「おいしそう」と歓声を上げます。前日から煮詰められたつやのよい大きな油揚げに、人参、椎茸、筍、干瓢、ゴマ、コブ……と、丁寧に美しく刻まれた具が人柄を偲ばせます。日頃いかに手間、時間をかけずにごまかすかと心を砕いている私など大いに反省。全員夢中で御馳走になり、大感謝。大満足。

かくして、何も決まらず編集会議は終了し、「後は場所を変えて……」と意気揚々と二次会へ出かけたのであります。(〇)

■筆山が20号を迎え、「記念号を発刊しよう」と意気込んでいたら、地震とオウムの影響で仕事が捗らず、今回はすっきり皆様に御迷惑を掛けてしまいました。発行も8月にずれ込み、引責辞任の声が周りに聞こえてきます。

ごめんなさい。(S)